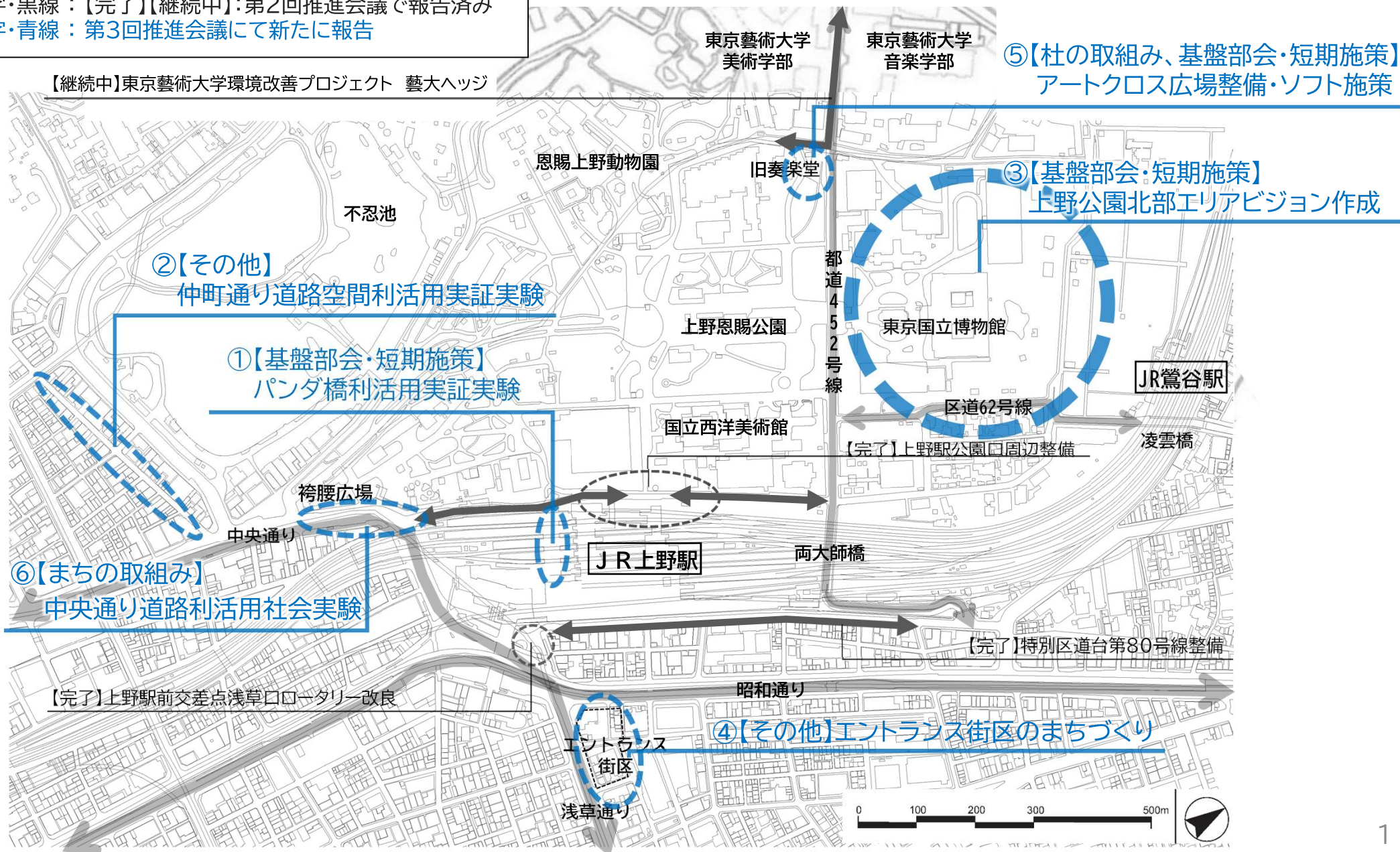


## ■上野地区で先行して整備が進捗している事業やウォークブルまちづくり推進の先駆けとなっている事業等

※第2回上野地区まちづくりビジョン推進会議資料を一部更新

**凡例**  
 黒字・黒線：【完了】  
 黒字・黒線：【継続中】：第2回推進会議で報告済み  
 青字・青線：第3回推進会議にて新たに報告



【パンダ橋の目指す将来像】

みんなの広小路として活用したくなる新たな拠点づくり  
杜とまちの回遊性向上

【今回の取組みの位置づけ】

令和5年より行う実証実験のプレイベント

令和4年12月16日(金)～17日(土) 11:00～16:00

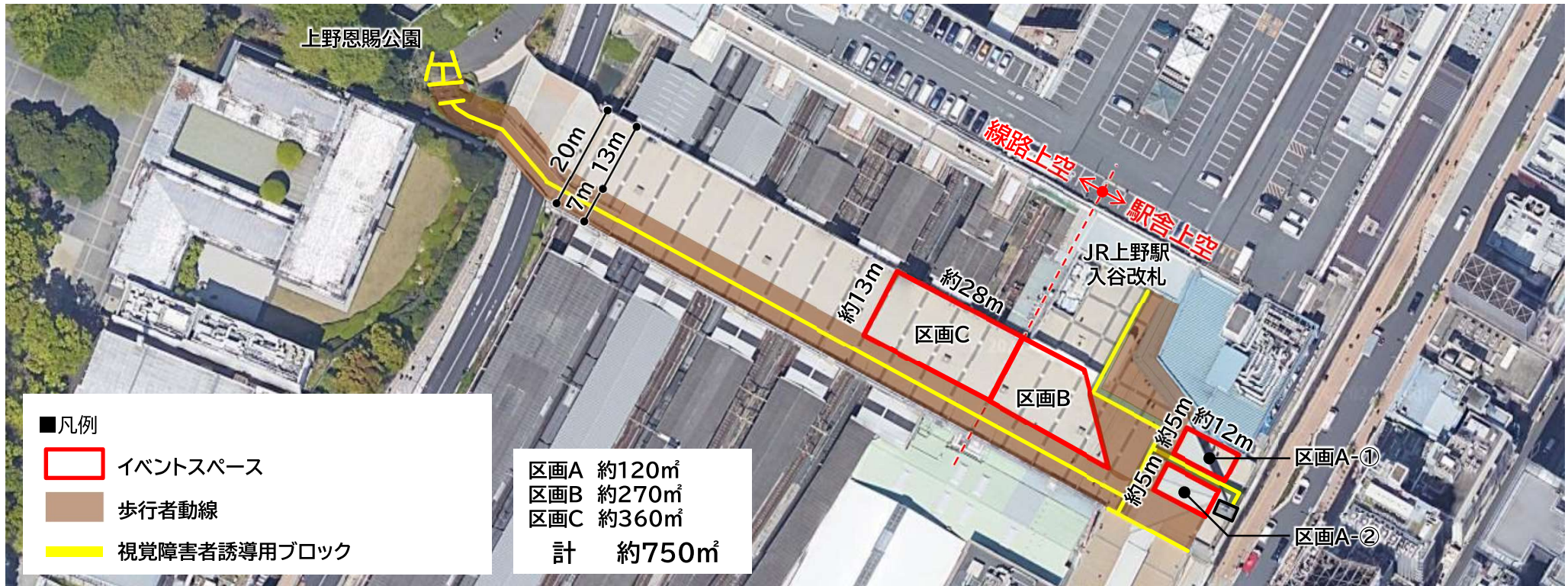
【今回の取組みの主な目的と内容】

- 1 通過する場所から過ごす場所にどのように変わるか  
「憩う」「食べる」「飲む」などのアクティビティ種類、利用者の確認
- 2 子どもから大人までもが楽しめる  
上野ならではのコンテンツによる集客性の確認

- 居心地の良い空間創出  
(数種類のイス・テーブル、植栽、芝生コーナー、図書コーナー等の設置)
- ハブアーティストによるパフォーマンス

※ プレイベント全体を通して、線路上空・駅舎上空における利活用時の安全性の検証、使用可能範囲や搬出入経路等の確認を行う

【使用範囲】



## ■実験の様子



## ■活用実験を通して生まれた『新たな風景』 ～くつろぐ・楽しむ“特別な2日間”～

- 2日間(平日1日、休日1日)の活用実験を通して、これまでパンダ橋には見られなかった、様々なアクティビティ(休憩、憩い、飲食、読書、仕事など)を観察することができた。
- 利用者の特徴としては、平日午前:周辺保育園、正午以降:ビジネスマン、休日:親子連れ家族など、曜日・時間帯による違いを把握できた。



## ■ヘブンアーティストによるパフォーマンス

- アコーディオン芸、マジック、ギターインストゥルメンタル、ジャグリング、中国雑技・アクロバットの5組が実施。1組あたり約40名が、足を止め・イスに座り鑑賞していた。
- 今回のパフォーマンスによる、歩行者との接触、音楽演奏やマイク音量による鉄道運行への支障、ジャグリングによる物損、強風によるパフォーマンスの中止などはなかった。
- 今後も複数回実験を行い、定常的な活用に向けたルール策定を目指す。



マジック(A区画)



マジック(A区画)



ギターインストゥルメンタル(A区画)



アコーディオン芸(B区画)



ジャグリング(B区画)



ジャグリング(B区画)



中国雑技・アクロバット(B区画)



ジャグリング(B区画)



中国雑技・アクロバット(B区画)



中国雑技・アクロバット(B区画)



ギターインストゥルメンタル(C区画)



アコーディオン芸(C区画)

## ■今後の進め方(予定) 当面は、JR東日本、台東区が中心となり進める

試行を踏まえた安全性・鉄道運行への支障の確認、利用者の層やアクティビティなどの確認

令和4年12月

コンセプト:

まずは実践してみる！  
新たな風景を生み出す！



令和5年3月(予定)

コンセプト:

新たな機能(例:飲食施設(キッチンカー等)を設けてみる！

- 複数回の活用実験の積み重ねのうえ、
- 使用ルール(案)作成
- パンダ橋らしい活用方針(案)を作成
- 継続的な実施・運営体制(案)の検討

パンダ橋らしい  
“過ごし方”“楽しみ方”  
の試行を積み重ねながら、  
認知度の向上を図り  
多くの人が利用する状態を目指す

# 上野地区まちづくりの最新情報の共有について ~②仲町通り道路空間利活用実証実験~ 【その他】

## 「ガイトウスタンド＆テラス」

仲町通りでは、沿道の地元関係者の方々、界隈の新しいまちづくりを志す方々、東京大学都市工学科の都市デザイン研究室が中心となり「しのばずいけまち研究会」を結成し、「テイクアウトやテラス営業などのための道路占用許可基準の緩和措置」を活用した、安心して過ごせる屋外空間と魅力あるまちの賑わい拠点づくりのための活動を行ってきた。



**告知フライヤー**

**ご利用マナー**

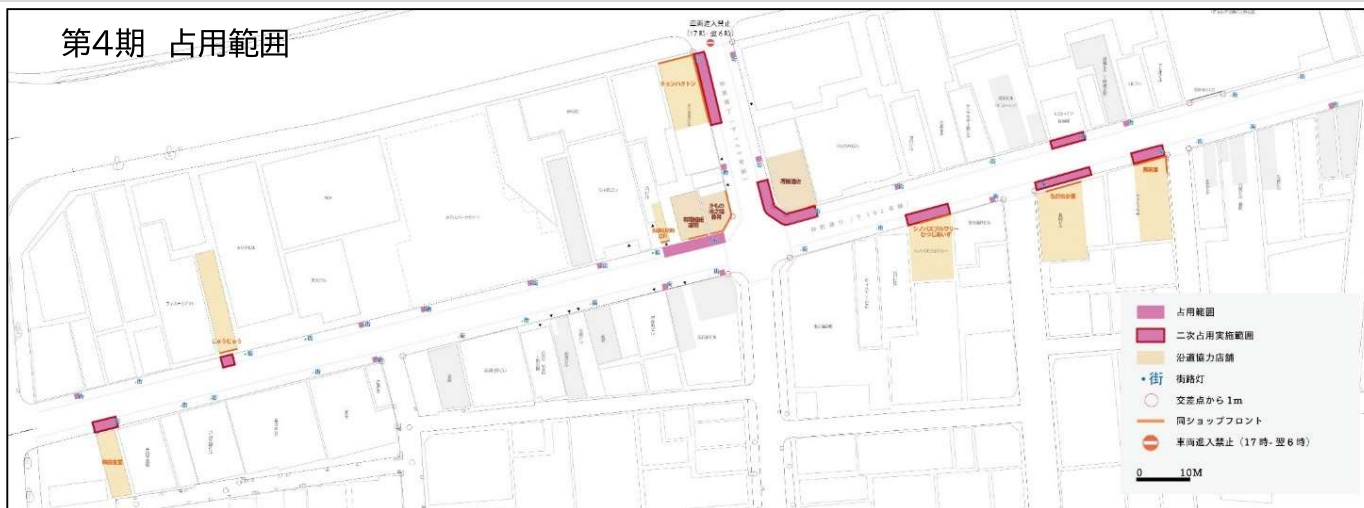
- ※ ハッシュタグは #ガイトウスタンド
- ※ 当日便利な テイクアウトMAP →
- ※ 利用時、必ず確認して頂き、休憩し兼ねがある場合は場所をご留意下さい。また、ご帰城時アプリGDDOのインストールもお願いします。
- ※ 文化の街、上野・潘島で “粋” な時間をお過ごし下さい。

- 1 車両通行止の17時にテーブルを設置
- 2 街灯で界隈MAPを発見
- 3 MAPを見て気になるお店へ
- 4 好みの街角で会話に花を咲かせる
- 5 定期巡回でゴミ回収&消毒
- 6 界隈飲食店が撤収&保管

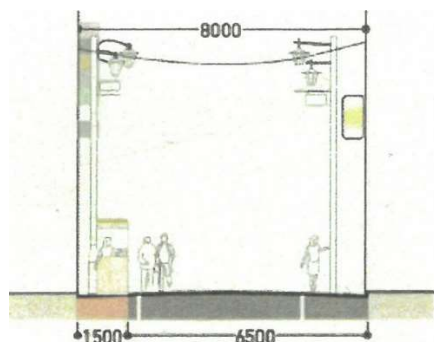
# 上野地区まちづくりの最新情報の共有について ~②仲町通り道路空間利活用実証実験~ 【その他】

## 「しのばずナイトテラス」

これまで行ってきた「ガイトウスタンド&テラス」等のまちづくりの取り組みを、より日常的かつ持続可能にしていくために、区と「しのばずいけまち研究会」が連携し、「歩行者利便増進道路」の指定を見据えた道路空間利活用のあり方を探る実証実験を行っている。

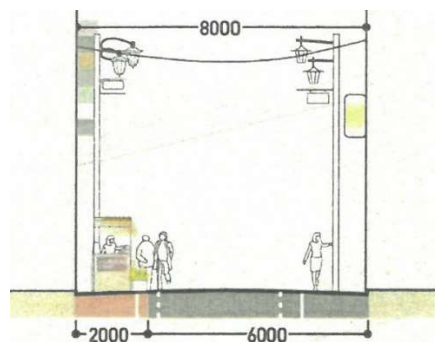


第1期



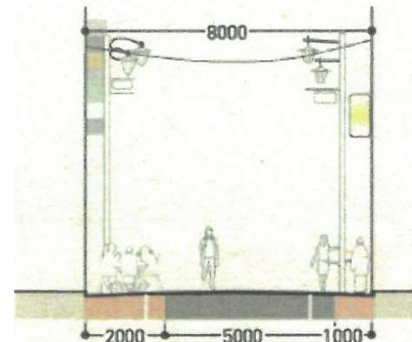
占用範囲: 片側1.5m

第2期



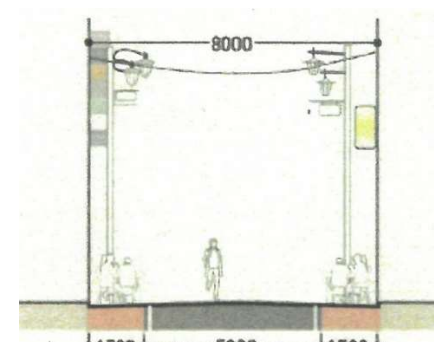
占用範囲: 片側2m

第3期



占用範囲: 片側2m+ガイトウスタンド

第4期



占用範囲: 両側1.5m



■ 上野公園北部エリアの将来像の共有を目指して

上野公園北部エリアについて

- 上野地区と谷根千方面や鶯谷駅南口方面をつなぐ結節点
- 当エリアには、寛永寺、東京国立博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、東京藝術大学など、歴史・文化・芸術に関連する施設が複数立地
- 北部エリアを訪れる人は恩賜上野動物園や杜の各施設に比べると相対的に少ない
- 上野駅から目的地である北部エリアの一施設を利用した後は上野駅方面に折り返す行動パターンが数多くみられ、エリア内の回遊や他方面への移動の比率は低い状況



当エリアには、まだまだ世間に知られていない歴史、文化、芸術、自然、景観、食が数多くあり、これらの魅力＝お宝を潜在化、発信し、エリア内及び他エリアへの回遊を促進することで、上野地区全体の新たな人の流れを生み出す

エリアの将来像の共有について

当エリアに位置する施設・関係機関だけでなく、鉄道事業者、公共施設管理者、交通管理者、台東区の関係課のなかで、北部エリアの将来像を整理し共有し、これらを繰り返し積み上げていくことで、関係者が愛着と誇りを持つエリアとなることを目指す

## 上野公園北部エリアの回遊性向上に資する 参道的な みちゆき※空間

寛永寺・東博・藝大などの施設と連携し地域の魅力をオープンにすることで、歩行者中心の空間とすることで、上野公園と谷中方面や鶯谷駅とをつなぐ通過する道から歴史・文化・自然を体感できる、“歩きたくなる空間”に生まれ変わる。





## ■ 区道62号線の現状

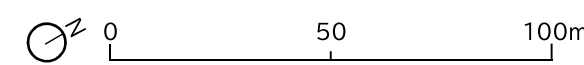
ポケットパーク①



ポケットパーク②



ポケットパーク③



## ■ 車中心から人中心の空間へ：一般車両の通過交通、駐車排除

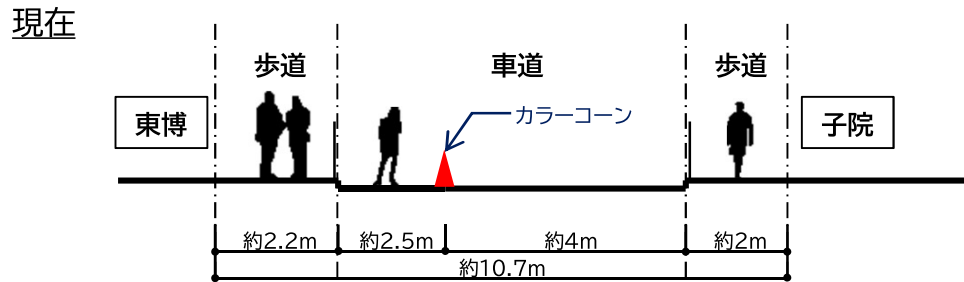
区道62号線は、車道幅員6.5mの一方通行で通過交通が多く、また駐車禁止規制がなく、かねてより一般車両の縦列駐車が多いことが問題となっていた。

平成26年10月より、上野警察と共同し駐車禁止規制が運用されている。幅員2.5mの位置にカラーコーンと規制看板が設置され、通過交通および駐車できない環境づくりが現在に至るまで行われている。



出典:googleストリートビュー

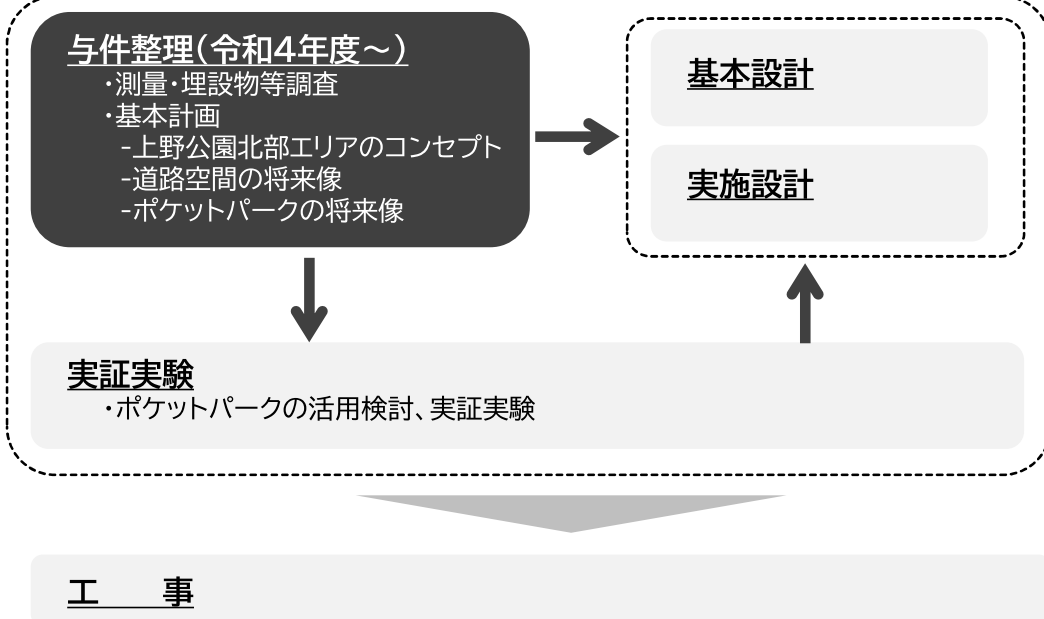
■ 区道62号線の現状



将来

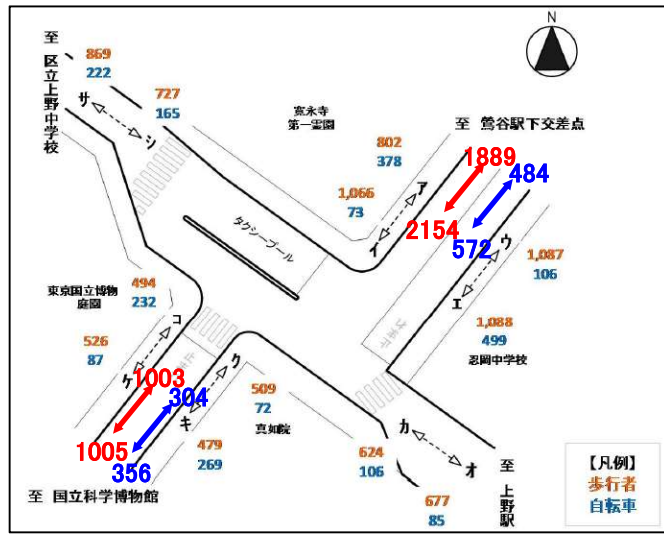
歩道を拡幅し、歩行者中心の道路構成に再編する。  
幅員構成等は、今後の検討課題。

■ 今後の進め方

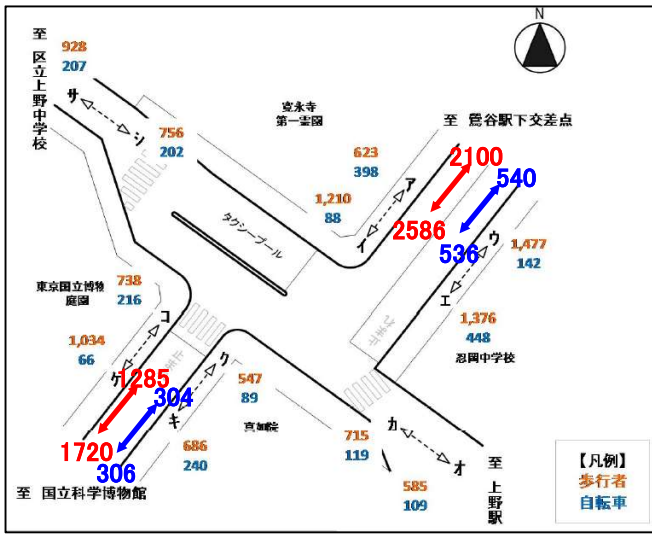


参考 上野地区周辺交通調査(令和元年度)

[平日]7:00~21:00 合計



[休日]7:00~21:00 合計



歩行者交通量

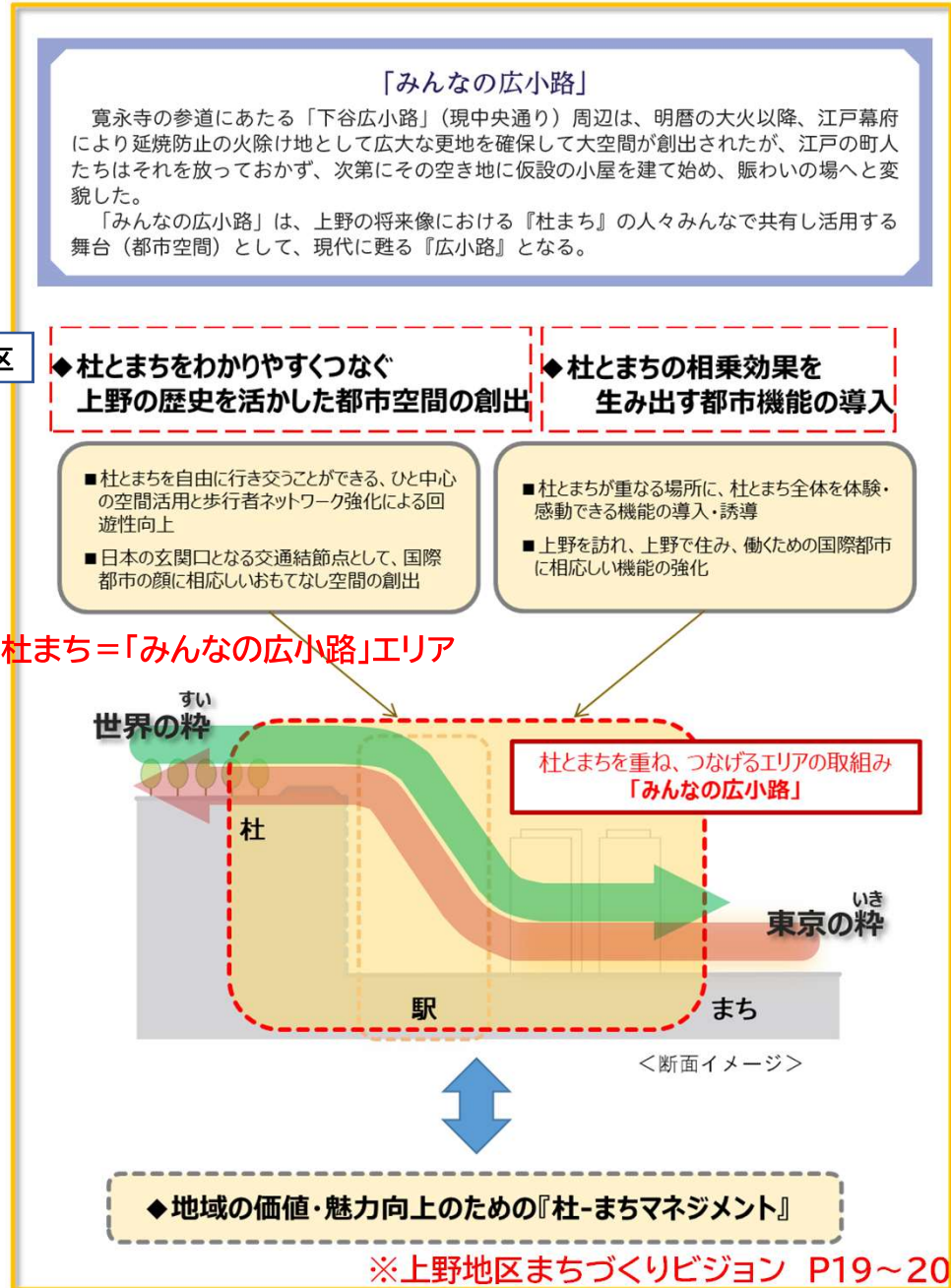
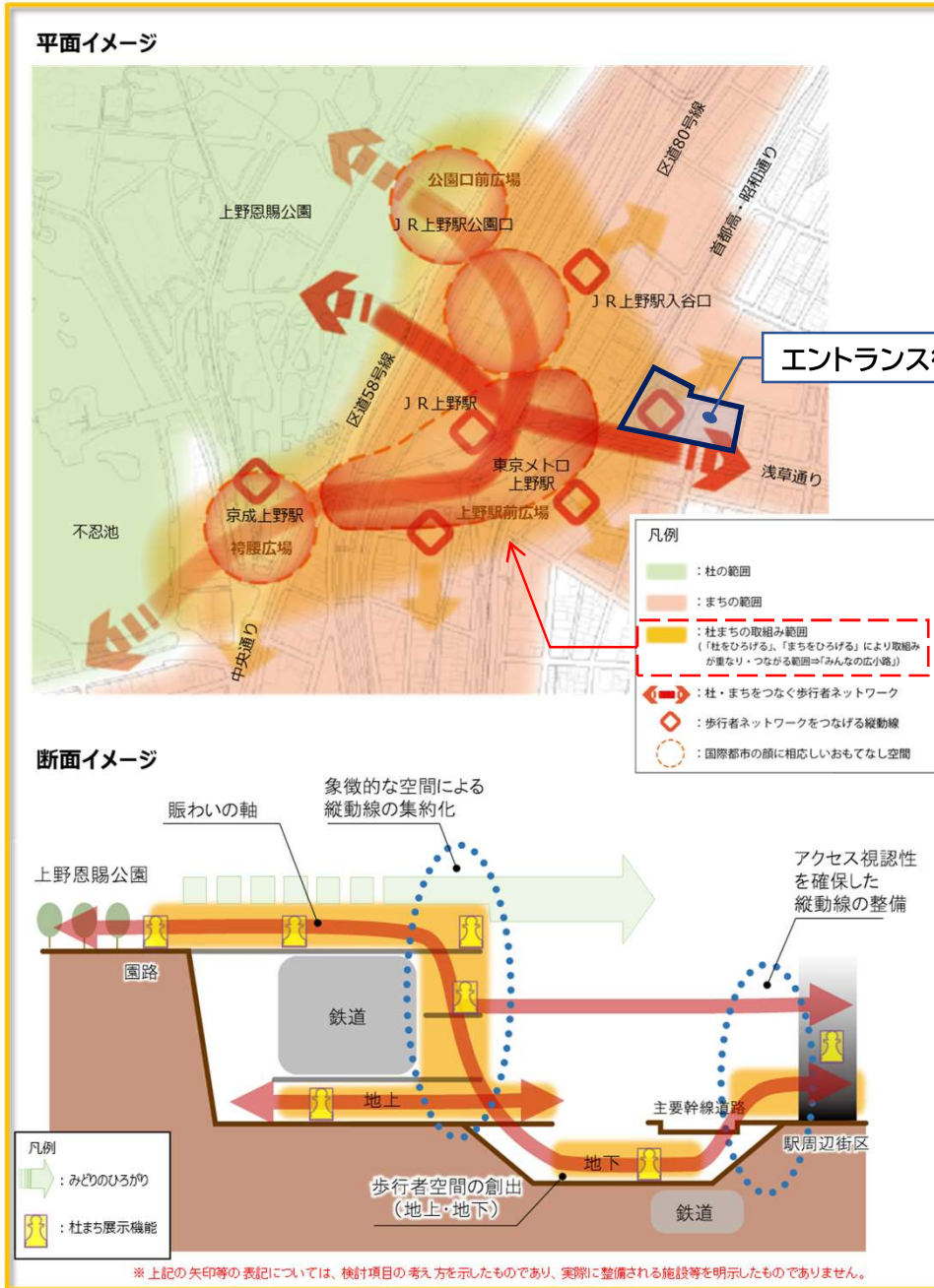
平日2008人／休日3005人

[東博側と寛永寺子院側の比較]  
平日は同程度だが、休日は、東博側が子院側の約1.4倍利用している。

自転車交通量

平日660台／休日610台

■ 社とまちを重ね、つなげる『みんなの広小路』エリアは、地区の核となる都市空間・機能を導入するための整備を実施  
 → エリアの開発を牽引する先行事業として「エントランス街区」のまちづくり検討に着手



### エントランス街区の現状

- 上野→浅草へのエントランスに位置
- 上野駅からの人の流れが限定的
- 台東区役所等の公共公益施設に隣接
- 東上野四・五丁目地区地区計画策定(令和元年12月)



### 現在の取組み状況

- 東京地下鉄(株)・台東区 基本協定締結(令和4年5月20日付)  
エントランス街区におけるまちづくりの相互協力を確認
- 土地区画整理事業に着手(令和4年8月16日付施行認可・公告)  
旧下谷小学校と上野警察署の土地を入替(～令和13年度)
- 旧下谷小学校校舎解体工事(令和5年度～(予定))



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号) 3都市基交著第70号

### 将来整備イメージ(案)

- 上野～浅草の都市軸のエントランス機能強化  
例:エントランス広場、低層部の商業・賑わい施設、観光案内機能 等
- 区民と来街者等が交流する文化交流施設の整備  
例:アート連携機能、創業支援機能 等
- 防災機能の強化  
例:災害時帰宅困難者の一時滞在に活用できる機能 等

#### 平面イメージ

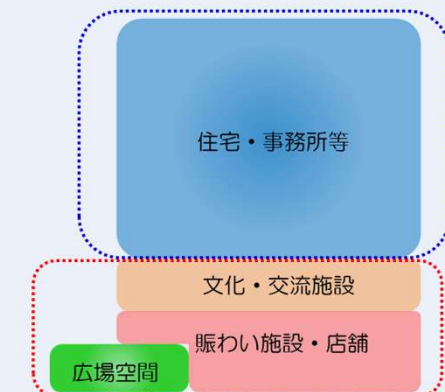


地区計画の方針等を踏まえ、浅草通りと昭和三通りの交差点付近に広場空間を配置、沿道と広場周囲には賑わい施設・店舗を配置し、まちの賑わい向上を図ります

※上記図面はイメージで、確定したものではありません

#### 断面イメージ

**高層部**  
高度利用により、良質な共同住宅や高機能のオフィス等を整備(事業性の確保も考慮)



**低層部**  
地区のエントランスにふさわしい、まちの賑わい・交流を育み、憩いとゆとりのある空間を創出

※東上野四丁目地区エントランス街区まちづくり勉強会資料より一部抜粋

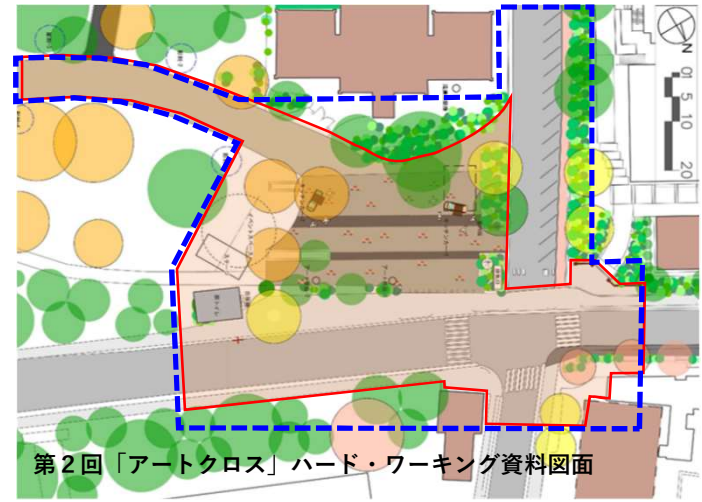
# 「上野文化の杜新構想実行委員会」 の取組み紹介

■アートクロス広場整備の対象エリア(基本方針)

本資料は「アートクロス整備提案書」から抜粋したもので、整備方針として決定したものではありません。

- <ゲート空間として、一体的に整備するエリア>
- ゲート空間を意識したデザイン
  - ひろばの一体性を強化し、周辺への広がりを演出
  - ひろば景観への配慮

- <ひろばの活用や機能を意識して整備するエリア>
- ひろば活用をイメージした空間
  - 必要な機能の配置



■アートクロス広場の空間イメージ

- 歴史的な建造物が映える空間
  - ・ひろばから4つの建物が見渡せる
  - ・伝統的建物周辺の景観への配慮
  - ・ペイブメントのデザイン
  - ・柵の透視性、高さ・形状、有無
- ひろがりを感じられる空間
  - ・視界のひろがりの確保
  - ・統一的なペイブメント
  - ・透視を遮る樹木の移植
- ひろばのイメージにマイナスな要素への工夫
  - ・トイレの位置・デザイン
  - ・案内板の位置、デザイン 等



■ひろばの活用イメージ

- ひろばの活用イメージ
  - ・平時は「憩い・滞留」
  - ・音に十分配慮した中で若い芸術家などによるアートを感じさせる活動やイベントにも活用



憩いの空間  
(キッチンカーの誘致等)

アートマーケットの  
定期的な開催等

本資料は「アートクロス整備提案書」から抜粋したもので、整備方針として決定したものではありません。

舗装イメージ



アートの鑑賞体験空間

現在の「芸術の散歩道」と連続性のあるアートと一体的な空間を新たに設ける。  
 ・使えるアート  
 ・触って楽しめるアート  
 土と石舗装の境界部・繋ぐ部分のデザイン

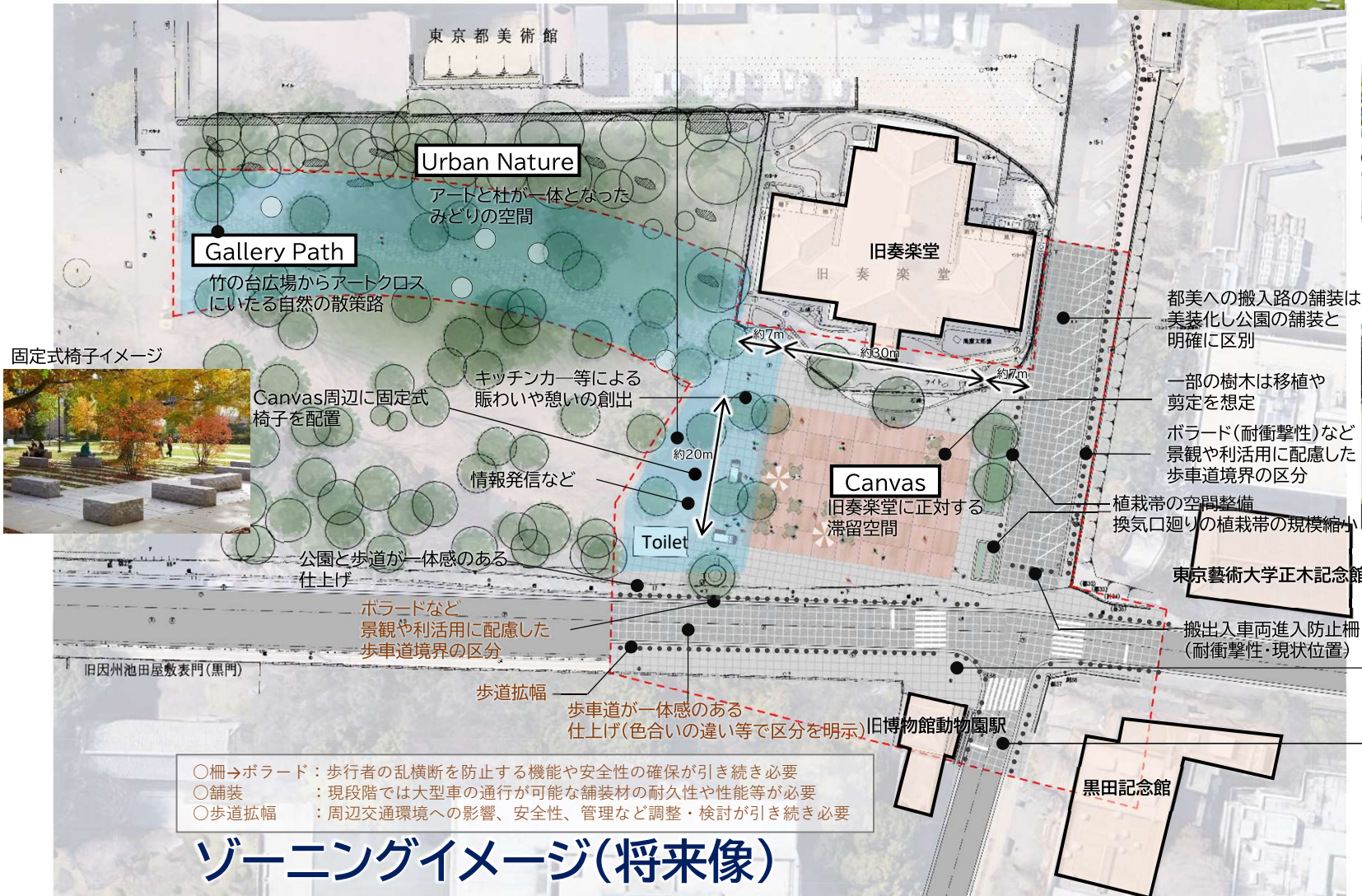


参考イメージ

参考イメージ



舗装イメージ



固定式椅子イメージ



Canvas周辺に固定式椅子を配置

公園と歩道が一体感のある仕上げ

- 柵→ボラード：歩行者の乱横断を防止する機能や安全性の確保が引き続き必要
- 舗装：現段階では大型車の通行が可能な舗装材の耐久性や性能等が必要
- 歩道拡幅：周辺交通環境への影響、安全性、管理など調整・検討が引き続き必要

## ゾーニングイメージ(将来像)

※これは上野文化の杜新構想実行委員会が提案する将来イメージです  
 ※都道452号線のうち車道部等については、周辺交通環境への影響や道路・交通管理双方の視点による安全性確保等の検討を踏まえ、関係機関との調整を継続します

| 将来整備イメージパース



※これは上野文化の杜新構想実行委員会が提案する将来イメージです

本資料は「アートクロス整備提案書」から抜粋したもので、整備方針として決定したものではありません。



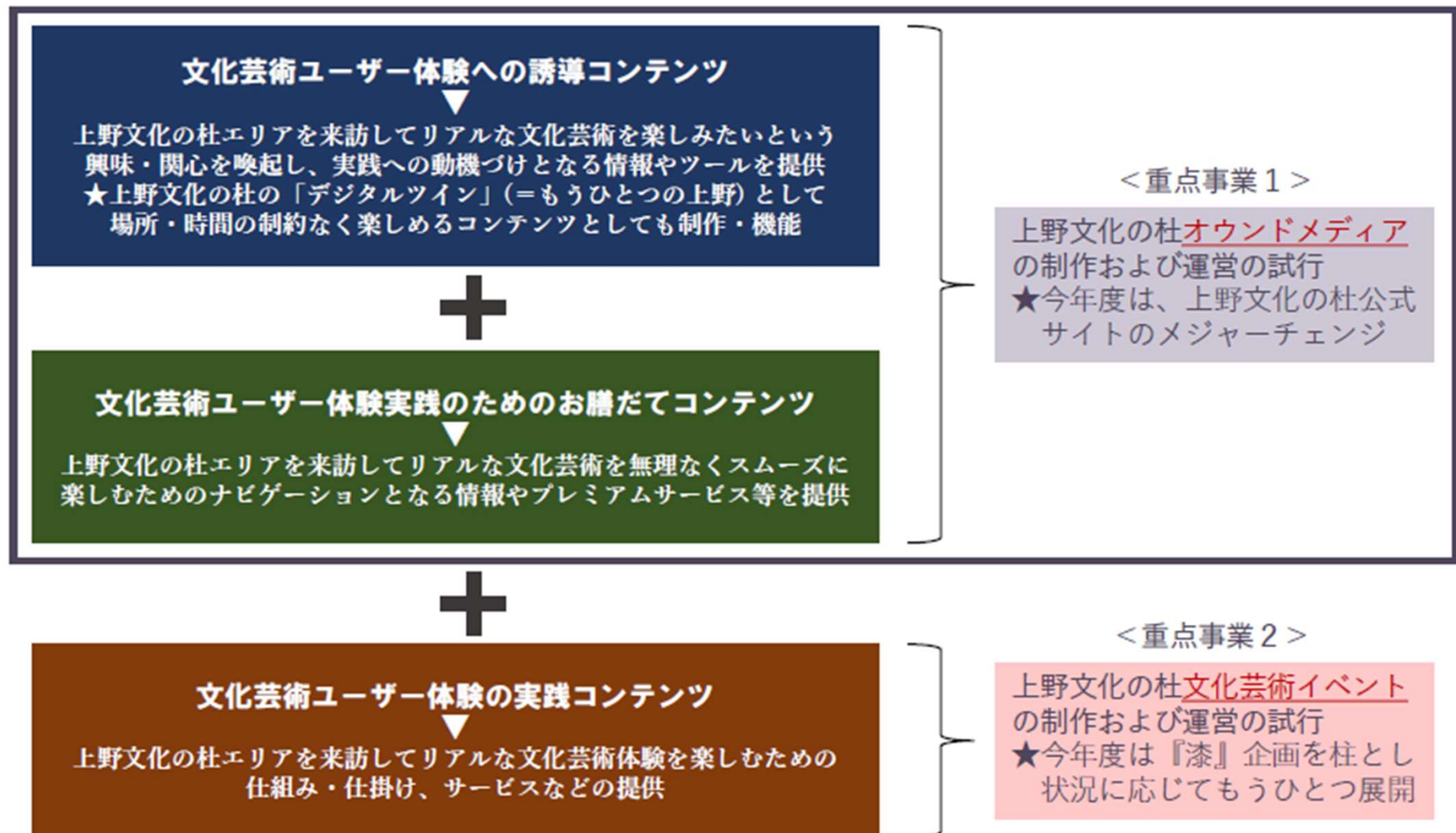
## 令和4年度 文化庁委託事業実施に係る中間報告（第2回）

上野文化の杜申請事業名：上野文化の杜「ウエノモリトマチミュージアム」の創造と連携展開事業

※第58回上野文化の杜新構想実行委員会  
(R4.11.1)会議資料より一部抜粋

### はじめにー事業の全体像

本事業は、文化観光コンテンツの充実を目的として、以下の3つのコンテンツカテゴリ展開を実現するために2つの重点事業を組み合わせるものです。



## 実施コンテンツ1：漆・手仕事ワークショップ（文化芸術イベント）



### 上野文化の杜のアートプロジェクト

## 漆と匠とアートの杜にて

### 「漆づくし」の特別な一日を体験する漆作品創作ワークショップ

東京国立博物館で「漆学」を学び、東京藝術大学で「私の漆作品」を創作するワークショップです。さらに、上野の杜の名店・伊豆榮梅川亭で一流の漆器を使って江戸前を食すというおもてなしのひと時も。漆づくしの特別な一日を、森羅万象のアートの杜で堪能してください！

### 今回のワークショップの3大ポイント

- 1 | 東京藝術大学教授やアーティストから直接指導を受けることができます
- 2 | 専門家以外は難しいと言われている「漆の手仕事」を体験できます
- 3 | ワorkshopで創作した「私だけの作品」をお持ち帰りいただけます

はるか天平の時代から仏像制作などに用いられていた乾漆技法。

今この技法が現代のテクノロジーと融合し様々な構造体を生み出す可能性ある技法として、さまざまな分野から注目を集めています。今回の「手仕事ワークショップ」は、この技法を実際に体験し参加者オリジナルの作品を創作し持ち帰っていただけます。一般の方々に向けては日本でも初めての試みです。当日は建築構造学の第一人者で世界的に活躍中の東京藝術大学美術学部教授が直接ナビゲートいたします。さらに東京国立博物館の著名研究員による「漆学講座」とこの日のために用意された名品の展示鑑賞ツアーも行います。

漆の奥深い世界を堪能しつつ、漆の新しい可能性を発見していただけます。

### 開催概要

日時	2023年1月24日（火）9:30-17:30 ※朝9時20分に東京国立博物館に集合。集合場所の詳細はお申し込みいただいた方に個別にお知らせします。
名称	ここでしか体験できない特別な創作メソッドによる漆アートづくりの体験
講師	東京藝術大学美術学部建築学科・金田充弘教授
定員	10名
会場	東京藝術大学、東京国立博物館
主催	上野文化の杜新構想実行委員会
参加資格	高校生以上であればどなたでも参加可能
参加費	60,000円／人

## 実施コンテンツ2：上野文化の杜の動物めぐり企画（文化芸術イベント）



上野文化の杜のアートプロジェクト

万象の生命と出会う杜

### アートの杜の動物を巡る1日だけの小旅行

時空を超え、現実と幻想の世界が交錯する上野の杜。

ここにはライブな動物と出会う楽しさはもちろんのこと、過去に生きた動物達や異世界に生息する架空の動物にも出会える、世界的にも珍しい魅力のスポットがいくつも存在しています。

今回の「上野文化の杜アートプロジェクト」は、ふだんは出会うことができなかったり、気づくこともなかったような選りすぐりの動物達を中心に巡る、一日限りのショートトリップです。

上野動物園、国立科学博物館、そして、廃駅となった京成電鉄の旧博物館動物園駅の幻想的な地下空間などを会場に、専門の研究者によるミュージアムレクチャーや、プレミアムレクチャー、話題の芸人による動物をテーマとするアートパフォーマンスも体験していただきます。新しい年の始まりに、上野の杜ならではの「万象の生命」との出会いの旅へ出かけます。

### 開催概要

<b>日時</b>	2023年1月8日（日）9:00 - 17:00 ※朝8時50分に国立科学博物館日本館正面階段前に集合
<b>定員</b>	限定30人 ご家族やグループで参加も可能です。
<b>会場</b>	国立科学博物館、旧博物館動物園駅、上野動物園
<b>主催</b>	上野文化の杜新構想実行委員会
<b>参加資格</b>	高校生以上であればどなたでも参加可能。 お子様は保護者同伴（単独での参加は小学生高学年以上に限ります）
<b>参加費</b>	6,000円／人（高校生以下は3,000円） ※今回、ご参加の方には別途特典として国立科学博物館、上野動物園を後日もう一度ゆっくり楽しんでいただくため入場チケットそれぞれワンセット、それと旧博物館動物園駅でアートパフォーマンスを行う芸人アートスト・ビストジャム氏の新著をお持ち帰りいただきます。

## オウンドメディア（新・公式サイト）の基盤となる考え方とゴールイメージ

「上野エリア」は、「上野の杜」と「上野の街」という2つの異質なエリアが隣接するによって構成されています。

「上野の杜」は、複数の国際級の文化芸術施設や東京藝術大学、上野学園というアートを専門とする教育・研究機関、さらに多くの歴史的な遺産によって形成される、世界でも有数の文化・芸術の一大集積エリアであり、「上野の街」は、「アメヤ横丁横」に象徴されるような商都・東京の個性の一角を担う極めてユニークな“都心立地の暮らし支援型商業”などの都市生活機能の一大集積エリアである、という際立った特性を持っています。

「上野文化の杜 オウンドメディア（＝上野文化の杜 新・公式サイト）」は、上記の特性を基盤とし「上野の杜」および「上野の街」エリアの異質な文化価値を関連付けることによって、“ウエノだからこそ”の『文化芸術×生活』の風土や生活様式等の醸成というライフスタイルミックスなアートの世界観を提案し、「もうひとつのUENO」を創造、運営していくことを目指すものです。また、この「上野文化の杜 オウンドメディア展開」によって、ターゲット市場を多重化し、上野エリアの様々な領域の市場規模を拡張するという成果を獲得することを目指す事業でもあります。

### <オウンドメディア（新・公式サイト）の構築・運営イメージ>

- 様々な「ひと」や「もの」や「こと」が文化芸術（arts & Culture）をテーマとして集まり、共感し、交流し、そしてクリエイションする場や機会やコンテンツを提供する存在であること。

上野文化の杜のオウンドメディア（＝新・公式サイト）は、日々の暮らしや仕事の中に“あたりまえのように文化芸術がある”環境や状況を創り、社会・市場の皆さまにギフトできる存在であることを目指します。

上野文化の杜がこれまでスローガンとしてきた「ダイバシティ&インクルージョン」を、文化芸術表現の多様性の包摂のみならず社会・市場の多くの生活者が持つ文化芸術への期待とニーズの多様性を包摂していくことのできる媒体であることを目指します。

- 様々な「ひとものこと」が、文化芸術をテーマとする世界の中で自分らしくあることを許されている場であること。  
そのために、多様で上質な文化芸術環境の中で、快適で、癒され、安心できる「もうひとつの」自分の居場所や人々のつながりを、新・公式サイトでの展開の中でつくっていくことを目指します。
- 主義主張や個々の価値観に制約されない、文化芸術への「共感」をベースとしてつながるやわらかいコミュニティがあること。  
このような共感をベースとしてつながるコミュニティは、時空という物理ハードルを越えて軽やかに、そして自由自在に広がっていくものだと考え、日々の暮らしや仕事や学びというあたりまえの人の営みをまなざしながら、文化芸術を通じた新しい世界観を表現し提供していくことを目指します。
- 文化芸術領域をベースとして、他の様々な領域への企画や知見等の提案を積極的に発信していく“アートアクティビスト”としての役割を果たしていくこと。

私たちは、文化芸術が、社会・市場に多様な属性に包まれて存在する皆さん個人個人の「日常的な暮らしや仕事や学び」を、豊かで、心地よく、わくわくするような場とすることができる「ものやこと」を提案し、提供していくことを目指します。

## オウンドメディア（新・公式サイト）運営体制の整備方針

★「⑤」については、新公式サイトの編集連携についてのお願い

- ①上野文化の杜新構想実行委員会・事務局内に「編集部」を設置する。  
→今年度事業期間においては、編集部メンバーを常用や固定を行わず、来年度以降の持続可能な運営をにらんだ編集部体制のあり方の検討、および、常用候補となる人材選定を目的として可変的な編成を行う。
- ②今年度の編集スタッフは、編集やライターとしての経験の深い人材を編集デスクとして1名設定し、ライターとして2名程度の人員を招集して編成する方法を検討。
- ③「ライターとして主に東京芸術大学をはじめとした文化芸術領域の学生および若いOBを組織化して編成する」という組織整備方法を、来年度以降の編集部の人事メソッドとして計画・実行していきたい。  
→本項に関しては、「藝育会」との連携の方向も模索したい。
- ④編集長は、上野文化の杜新構想実行委員会・事務局長が担当する。
- ⑤「上野の杜特派員」を、上野文化の杜新構想実行委員会を構成する13団体から最低1名を選出し、当該職員・社員の職掌の一項として設定していただきたい。  
→現時点では、各団体とも本来業務として編集に係れる体制整備はできていない状況であるため、来年度以降には「上野の杜特派員」として編集部との連携担当的位置づけで活動できるように、今年度事業内に実際に編集連携を行いながら調整していく。  
※「編集部体制の上野文化の杜新構想実行委員会全体連携による運営」のプロトタイプを実証。  
→具体的な編集連携としては、新公式サイトの「ウエノモリトマチNEWS」への情報・コンテンツ提供（今年度は事務局編集部による各館・団体へのアンケート取材+ヒアリング取材の2方式の併用）を基軸として実施する。  
※NEWSコンテンツの内容は、「各館・施設の企画展やワークショップなどのアクティビティのティザー情報」や「各団体（大学、行政、企業などの上野文化の杜構成団体）のイベントなどのエポック情報」など、時々々に旬なトピック情報コンテンツを中心に設定する。
- ⑥来年度以降に「上野の街特派員」の連携体制整備を想定し、今年度事業では「上野の街」との連携の体制構築の方向を模索し、状況に応じて上野まちづくり協議会等とのコミュニケーションを行いたい。

# 「上野まちづくり協議会」 の取組み紹介

# 上野がめざす人中心の公共空間 「上野広小路ヒロバ化計画」

「上野広小路ヒロバ化計画」とは  
上野まちづくり協議会が考える  
上野広小路が持つ歴史的、位置的、構造的、  
精神的な象徴性を再構築しながら、  
まちづくりの課題解決と新たな価値創造を  
めざすプロジェクト



「上野公園から木々を楽しみながら降りてくると、いつの間にか街中にあるような緑の道」のイメージ

## 広小路に集中する上野のまちの課題

- (1)上野の象徴的場所の創出(中央通りの本来の終点は寛永寺)
- (2)中央通りによる上野公園とまち/まちの東西の分断の解消
- (3)人の居場所/歩行者優先環境の創出(歩行者天国の復活)

<p>現状 欠かれた 街と山との連続性</p>	<p>個人が車道を歩行者が歩き交差</p>	<p>道に沿った高層ビル群</p>	<p>広小路は車のための道に</p>	<p>広場機能を失った広小路</p>
<p>①中央通りの本当の終点は寛永寺</p> <p>中央通りの 終点は寛永寺 地点は上野</p>	<p>②中央通りの一部を駅前広場として交通を遮断</p> <p>駅と堂宇 連続させる</p>	<p>③広小路を人の広場として創出</p> <p>歩行者 天国の 復活</p>		

# 上野に人中心の公共空間を段階的に取り戻す 「上野広小路ヒロバ化実験」

## 段階(案)

### (1)第1段階(R5年度以降・3年程度以内)

休日1-2日程度の道路使用等

- ・ 占用形態：「地域の活性化等に資する路上イベントに伴う道路の取り扱い」  
(うへの夏まつりパレードの実績あり)
- ・ 占用主体：まち協 or 新団体
- ・ 実施時期：1-2月上旬(春節は除く) or 8月 or 8月末(お盆明け) or 12月頭(歳末前)



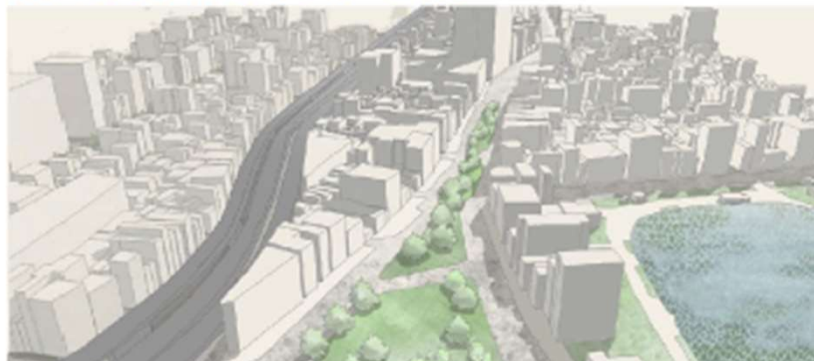
### (2)第2段階(概ね10年以内)

ヒロバ化にむけた継続的な占用の実施+運営体制の構築

- ・ 占用形態：道路占用(最長20年)
- ・ 占用主体：公募による(まち協 or 商店街 or 新団体?)

### (3)第3段階(概ね20年以内)

第1・2段階を踏まえた将来像の実現



出典：「なんば駅周辺道路空間再編に関する基本計画」資料より

## 先行事例：なんば駅周辺道路空間の再編に関する基本計画

- ・ なんば安心安全にぎわいのまちづくり協議会(2011年～) 地元町会・商店街・企業
- ・ なんば駅前広場空間利用検討会(2015年～) 地元・商工会議所・行政
- ・ なんば駅周辺道路空間再編社会実験(2016年11月11～13日)
- ・ なんば駅周辺道路空間再編社会実験(2021年11月23～12月2日)
- ・ 2022年工事着工・2025年全体完成

イメージ：関空からのラピート号で着いたら人中心の広場に出て御堂筋と千日前通や戎橋筋につながっている

## 上野での人中心の公共空間のイメージ

「成田からのスカイライナー号を降りたら人中心の広場に出て中央通りと仲町通りやアメ横にそのままつながっている」状況をめざす







